

## 科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 24 年 2 月 9 日（木）10:00～11:31
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
  
- 出席者 大串大臣政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、大西議員、泉統括官、  
梶田審議官、吉川審議官、大石審議官
  
- 議事概要

### 議題 1. 平成 24 年度科学技術関係予算案におけるアクションプラン、重点施策パッケージの状況等について

#### <鈴木参事官説明>

- 大西議員 今まで議論したのは予算要求に対して査定がどういように行われたかということここで資料を基に議論してきたと思いますが、この資料を対外的に出す意図はどこにあるのでしょうか。位置づけをご説明いただけたらと思います。
- 相澤議員 これはあくまでも、政府予算案が今、国会で審議される状況ですので、そこに出される内容を科学技術の立場から整理しているという状況だと思います。今ご指摘のあった総合科学技術会議として強くコミットしたアクションプラン及び施策パッケージについて、その内容がどういう形で結果に反映しているかは追って分析しつつ、また検討していただければと思います。
- 大西議員 3 ページ目に、平成 23 年度の当初予算の継続施策について計上とあって、112 施策、173,453 百万円という数字があります。これは 24 年度の 147 施策に入っていると思いますが、残りの 35 施策については 23 年度にはない新規のものということですか。それを合わせたものが 600 百万円ぐらいプラスになり予算案になっているという理解でいいのですか。
- 大路参事官 基本的にそういうことでございます。この考え方でございますが、24 年度のアクションプランの対象となった 147 施策、2,359 億円。ここを基準に考えた場合に 23 年度同様の施策がどの程度行われていたかという比較をしたものでございまして、あくまでも考え方でございますけれども、アクションプランをやることによって、アクションプランで掲げるところの政策の方にこういうように予算がシフトしたという捉え方をすることができるかと思っております。
- 大西議員 ただ、継続の 112 施策について、23 年度と 24 年度で比較するという事もできますか。それはできないですか。
- 大路参事官 ご指摘のとおり、そういう比較はできると思っております、最終的にその比較の数字を積み上げていませんが、その数字で見ても若干数字が延びているといった結果になったかと考えております。

- 大西議員 新規の 35 施策の中には復興・再生というのが相当入ると思います。23 年度はなかったということですから。そういう意味では全く新しい枠組みの予算が増えてきたので、それを全部入れて増えましたという、何か少し議論としては水増しされているような感じが否めないと思うので、きちんと答えられた方がいいのかなと。
- 大路参事官 ご指摘のとおりだと思います。あくまでも 1 つの考え方として私が申し上げたとおりでございますので、そういう切り口に対してきちっと答えられるようにしておくことが大事だと思っておりますので、その辺も含めて整理させていただきたいと思っております。
- 相澤議員 今のご指摘は、実は非常に重要な意味を持っております。アクションプランというツールを使ってどれだけ予算を重点化できているのか。それをどういように見るかというところなんです。施策の数で見るという軸もあれば、その施策の個々の中にどれだけ重点化の効果が現われているかという面もあるということで、いろいろと分析はしているのですが、これは依然として重要な課題でもあるので、是非検討を続けていただきたいと思っております。
- 鈴木参事官 予算の伸びについてはいろいろ見方があるかと思っておりますけれども、例えば新規施策という切り口で取り出した場合に、ある意味政策的な取組について提案して予算要求をするというものになるかと思っておりますけれども、アクションプラン対象施策の新規事業と、アクションプラン対象施策以外の科学技術予算の新規事業に関し、内局という枠組みで考えた場合にはアクションプラン対象施策の方が比較的措置率が高く、後押し効果があったのではないかと伺わせるデータがとれているということでございます。
- 相澤議員 それと、科学技術予算だけではなく、全般的に大きな枠の中での削減、集中、こういうようなことが行われている中での捉え方ですので、単純に前年度の比較だけではすまない問題もあるわけです。その辺のいろいろなファクターが入っているところでアクションプランのツールが本当に有効であったということをどうクリアに説明するかというのが依然としてやはり問題かと思っております。
- ただ、全般的に見てもアクションプランという方策が有効であったと判断できます。
- 鈴木参事官 ある意味各省が打って出るような施策について一定の後押し効果があったのではないかと思っております。
- 大串政務官 まさに今、アクションプラン等々を含めて総合科学技術会議として深くコミットしたものに関して後押し効果も含めて、あるいは重点化、注力化も含めてどのぐらいできたかということをお今回はきちんと 3 兆 6,695 億円の科学技術関係予算をまとめてきちんと整理したというのが今の段落ですけれども、まだ部内でも議論しているのが、アクションプランも進化してやってきているわけです。重点施策パッケージもやった。それがこれだけで止まっていいのか、それともここに改良を加える必要があるのか。
- それと今回、予算編成の最後の段階で私たちの指針もおまとめいただきました。例えば独法とか大学の運営費交付金に対して私たちは意見を付するという事になってはいますが、それが十分だったか。この辺も含めて説明責任のあり方は検証していかなければいけないかなと思っております。それはまだ中でも議論してはいますが、完全にいい知恵が出ているわけではないのですが、不断の錬磨が必要かなと思っております。

**議題2. 科学技術イノベーション戦略協議会の設置に向けた検討事項について**

(科学技術イノベーション戦略協議会の構成員等の方針に関わる内容であるため非公開)

(以 上)